
初恋

当麻 紫苑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【Nコード】

N8152J

【作者名】

当麻 紫苑

【あらすじ】

いつか風のように——土方歳三

「約束だよ？」

「——ああ、約束する」

<鬼の副長>として恐れられた土方歳三。彼が日野で幸せに、だが
燦る気持ちを押し殺して日々を過ごしていた頃の物語——

はじめに

<初恋>は<新撰組>であまりにも有名な土方歳三、沖田総司たちの初恋を描く短編連作です。が、本作は私、当麻紫苑の完全な創作です。

ゲーム<薄桜鬼>を意識して登場人物を描写していくため、史実と矛盾するかもしれませんが、薄桜鬼を知らなくとも読める物語になります。

・ 予定タイトル

いつか風のように——土方歳三

終わりになき唄——沖田総司

時のうつろう中で——斎藤一

散りゆく者たち

あくまで予定タイトルです。登場する人物はほとんどが架空の人物になります。ご注意ください。

追加予定タイトル

闇の中の声——宗田真百合

双星——比良坂沙那

せめて、哀しみとともに——斎藤一

光の子——水瀬葉、水瀬一葉

緋の挽歌——水瀬葉、水瀬日継

いつか風のように——土方歳三

「……………」

歳三は気だるげな表情でゆっくりと上体を起こした。眠りに落ちる前に何も纏っていないかったためか、身体が僅かに震えたので布団から少し離れたところに脱ぎ捨てられていた着流しを手に取り、緩慢な動作で袖を通した。傍らでまどろんでいる今夜の相手を務めた遊女ゆきひらの雪平にちらりと視線を落とすとふうつと息を吐く。

「……土方さま？」

雪平は目を覚ましたのか、こちらを見上げていた。

「……悪い夢でも見まして？」

そう、上目遣いに語りかけてくる雪平の仕草が『彼女』を思い起こさせた。…それはこの年若い遊女を一目見たときから時折感じる感情であつた。そんなことを考えていた己に気付いた歳三は苦味をはらんだ笑みを口の端に浮かべた。

（今さら……つてえやつか）

「雪平…おまえ、年齢としはいくつだ？」

雪平は目を伏せて問いかけてきた歳三に戸惑つたが答える。

「十七でございます」

雪平は京言葉を使わない。幼い頃に島原に身売りされたために京言葉は使えるが、人目が無くなると標準語に戻る。……もつともこの少女はあまり物を多く語らぬ無口な性分であるため——だからこそ歳三は氣に入つたのだが——詳しい事情は分からないが。

（十七、か…）

あのと看——『彼女』もそれくらいの年齢としだつた…。

——幸せに、なれよ…

……今でも時々考えてしまう。あのと看、自分は『彼女』にある意

味ではとても残酷なことを言ってしまったのではないかと。

だが、今更思い返して何になるというのか。初恋の少女は誠実で立派な男を選び、自分もまた『彼女』と生涯交わることはないであろう修羅の道を選んだのだ。

（——もう、二十年も経つのか……）

歳三はもの問いたげな雪平の頭を膝に乗せてやり、膝枕をしてやりながらぼんやりと思いを馳せた。まだ、日野で幸せに慎ましく暮らし、だが燦る思いを抱えていたあの頃へ——。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8152j/>

初恋

2010年10月9日04時34分発行